

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第3部課程 116期）

井原市 市民生活部市民活動推進課 唐木 忍

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1. はじめに

初めての課長職として市民活動推進課に配属され、経験のない分野での業務に緊張と不安を抱えていた4月初旬、この度の自治大学校第3部研修への参加の打診を受けました。最初は、約1か月もの間席を空けることへの不安、部下に負担をかけてしまう申し訳なさが胸に広がりましたが、係長に相談すると「7月中は課内で何とかするので大丈夫です」と背中を押してくれ、夫も「頑張ってきたらいいよ」と励ましてくれたため、参加を決意することができました。

2. 寮生活について

自治大学校第3部116期生は83名で、そのうちの女性12名が、麗澤寮の5階フロアで生活を共にしました。入寮初日、地元立川市の女性研修生の方が声をかけてくださり、立川のお店で女性研修生の顔合わせ会を開いていただきました。社交性に自信がなく、研修期間中ひとりで食事をするようになるのではと不安だった私にとって、この心遣いは本当にありがたかったです。食事をしながら話してみると、ほとんどの方が同じように「ここに来るまで不安だった」と口にされ、皆が同じ気持ちで研修に臨んでいることを知って安堵しました。

研修期間中は土日を3回挟み、研修生同士の交流を深めることができました。第1週目は十数名で高尾山へハイキングに出かけ、猛暑と運動不足に苦しみながらも全員

で山頂に到達できて達成感を味わうことができました。（下山後の冷たい蕎麦と生ビールは格別でした。）第2週目には自治会役員の方が江の島・鎌倉への遠足を企画してくださり、公共交通を使ってシーキャンドル、鎌倉大仏、鶴岡八幡宮と観光名所を一気に巡り、お昼は名物生しらす丼を堪能しました。最終週は立川の花火大会。5階フロアの皆さんと芝のグラウンドにブルーシートを敷き、卒業が近づく寂しさを感じながら真夏の夜空を彩る花火を満喫しました。

寮生活は、私にとって、研修の学びを支える「仲間づくりの場」として大変意義深いものになりました。



《高尾山山頂にて》

3. 研修について

第3部課程は管理職を対象とした約1か月の集中研修であり、最新の行政課題の知識をリフレッシュするとともに、ケーススタディや演習を通じて、組織方針の構想力、判断力、説得力あるプレゼンテーション能力を養う内容となっています。各分野の第一人者を中心とした講師陣による高度な内容の講義では、人口減少、AIの進展、地域課題の複雑化、職員の価値観の多様化といった急激な変化の中で、自治体管理職に求められる役割を多角的に学ぶことができました。

私は、研修の目標として、リーダーとして決断する力、部下が自ら動きだすような声かけの仕方を学びたいと思っていました。講義を受けて印象に残っているのは、リーダー像を固定化せず、状況に応じて適応型・サーバント型など複数のスタイルを使い分ける柔軟性は重要であること、コミュニケーションにおいては「敬意と親しさのバランス」が不可欠であり、管理職自身が感情や行動傾向を客観視し、部下の個性に合わせた関わりを続けることで職場の心理的安全性は高まるということです。

また、自治大の卒業生として講話をしていただいた、宮崎市女性副市長の袈裟丸先生の、「ハラスメントに過剰に反応し、嫌われることを恐れて判断を避けることは組織の不全を招く」という言葉が印象深く心に残っています。

自分自身の行動傾向を自分が理解し、柔軟に対応する力と、最後は嫌われる覚悟を持ちたいと思いました。

また、研修の中には、特定政策課題演習といって、自分の自治体の課題について、テーマを自分で決め、10年先を見据えた解決策を市長に提言するという想定でレポートを作成し、発表する演習があります。私は、自分の課で課題となっている題材をもとに、

研修中の講義で得られた知識も盛り込んでたたき台を作成し、グループ討議に臨みました。グループ討議は、一組7人の班で行います。討議といってもざっくばらんなもので、互いに意見を言い合い、自分の自治体の施策について情報提供をしたり、発表の流れのアドバイスなどもありながら進められたため、より良いものに仕上げて外部講師へ発表することができたと思います。

4. おわりに

不安いっぱいに参加した研修でしたが、気づけばあっという間に過ぎた4週間でした。この研修で得た全国の自治体職員とのネットワークを大切に、実務で悩むときに相談し合える関係を細く長く続けていきたいと思っています。

また、研修で学んだ「自分の行動を俯瞰する目」と「柔軟なリーダーシップ」を常に意識して、部下の声に丁寧に耳を傾け、職員が安心して挑戦できる環境を整えて、組織の力を引き出せる管理職になれるよう努力していきたいと思っています。

最後に、ともに悩み、励まし、笑いあった同期の皆様、自治大の先生方、課程担当ほか教務部の皆様、寮生活を支えてくださった職員の皆様に心から感謝申し上げます。



《特定政策課題演習班のメンバー》